

第4回宇治市教育振興基本計画策定委員会会議録

日 時 令和3年11月4日（木） 午後5時00分 開議

場 所 Zoomによるオンライン開催

会 議 日 程

1. 開会
2. 協議 「第2次宇治市教育振興基本計画（第2次素案）」について
3. その他
4. 閉会

会議に付した事項 会議日程に同じ

出席者

（策定委員）

委員長	京都教育大学教授	榊原 禎 宏	副委員長	北宇治中学校長	吉田 英 司
委 員	京都文教短期大学准教授	桑原 千 幸	委 員	宇治市連合育友会長	丹羽 寛 美
委 員	宇治市連合育友会副会長	竹内 理	委 員	菟道小学校長	島田 尚 明

（事務局）

部 長	伊賀 和 彦	副 部 長	上道 貴 志
教育支援センター長	林 口 泰 之	教育総務課長	栗田 益 典
学校管理課長	吉田 健 一 郎	生涯学習課長	齊藤 政 也
学校教育課長	吉田 秀 平	教育支援課長	金 久 洋
学校教育課副課長	藤田 祥 尚	教育総務課企画庶務係長	北池 颯 子
教育総務課企画庶務係	前田 圭 祐		

開 会 （午後5時00分）

1. 開会

委員長が第4回「宇治市教育振興基本計画策定委員会」の開会を宣言する。

2. 協議 「第2次宇治市教育振興基本計画（第2次素案）」について

<説明>

[事務局] 主な変更点について報告する。前回P15の「教育理念」「目指す人間像」「取り組む施策」を議論、意見いただいたので、それを踏まえ修正をしている。

まず、教育理念については前回案のとおり「家庭・学校・地域でささえる宇治のひとづくり・まちづくり」としている。目指す人間像については前回、「よりよい人生と社会を創り出せる人」としていたが、「あすの宇治」というキーワードをご意見いただいたので「社会」の部分「あすの宇治」としている。

次に「取り組む施策」だが、前回「施策共通の視点」で「ICTの積極的な活用」、「特別支援教育の推進」、「幼児教育・保育の推進」としていたが、ICTは教育を進めるうえでのツールに過ぎないことや、特別支援教育の推進と幼児教育・保育の推進は観点が違うのではないかと、また特別支援教育、幼児教育・保育の推進は施策の1～7まで、特に7については影響が出ていないのではという意見をいただいた。それを踏まえ、ICTについては「取り組む施策」の下の※に記載し、各施策においてICTを積極的に活用して取り組むとしている。また、特別支援教育、幼児教育・保育の推進については非常にわかりにくいという意見があり、「目指す人間像」と「取り組む施策」と「施策共通の視点」を含め、それらをつなげるようなキーワード的なものが必要ではないかということで、今回「計画推進の視点」として「子育て」「創造」「挑戦」「共生」「循環」という5つの視点を設定した上で、それぞれの「取り組む施策」を記載している。そして「取り組む施策」の施策1から施策4については、「教育の推進」という観点ではなく、学習をどうやって促していくのかという視点に立つべきで、寄り添った教育をしていかないといけないという意見があり、施策の1から4の表現を変えている。なお、施策3が「幸福(well-being)につながる」と書いてあるが、「幸福度(well-being)を高める健やかな身体の育成」に訂正をお願いする。

施策の5、6、7については前回と同様だが、施策の1から4と「計画推進の視点」を変えているので、意見をいただきたい。

あと、施策名を「教育の推進」としていたので、P17、P18についても変更を加えており、施策1(1)については「学びの推進」というかたちに変えている。それ以外の項目についても確認し、表現や字句の修正をしているところである。

また、家庭の教育についての項目がないのではないかとという意見があり、今回施策5に「(5)家庭の教育力の向上、子育て支援の推進」を入れている。それから、P19以降の第3章の施策タイトルの下にSDGsに関連した項目のアイコンを入れ、各施策ごとにSDGsの観点を入れた取組を今後行っていくことを示している。また、グローバルな視点に立った状況も含めて表現を変えている。前回の意見等を踏まえ、委員長とも相談をしながら変更しているため、意見をいただきたいと思う。

<目指す人間像>

[委員] 「目指す人間像」について、前回、「グローバルな視点」と具体的な取組をどう連動させるのかという意見があった。連動しているのなら良いが、一方で「グローバルかつローカルな視点に立ち」という感じでもよい。

[委員] 端的にまとまっていてわかりやすくよい。「ふるさと宇治を愛し」というところが地元を愛して、そこから世界的視点を見て、というのはよい。

[委員] 最後の「社会」が「あすの宇治」となり、締りがよくなった。「グローバル」か「ローカル」かということについては、「グローバル」という言葉を残してもよいし、「ローカル」という言葉でグローバルと宇治との両方を表すという表現もある。

[委員] 「ローカル」という言葉は、学校現場ではまだ浸透していない。この文言にしてどれくらいの人がわかってもらえるのか。「あすの宇治」で十分宇治市のことを意識するということは伝わる。

[事務局] 「グローバルな視点」については、今回、SDGsを取り入れたこともあり、わかりやすく各施策の中でそのアイコンを入れている。ローカル色という部分は横文字とリンクしないかもしれないが、「ふるさと宇治」「あすの宇治を創り出せる人」という表現としている。

<計画推進の視点・取り組む施策>

[委員] 施策1に「自律的」とあり、「自立」ではなく「自律」としている理由を教えてください。

[事務局] 主体的からもう一步踏み込んだかたちということになる。自律的な学習者を育てていきたいということがあり、学び方やなぜ学習するのかというところにアプローチしていくなかで自分でコントロールできる、律することによってより深い学びにつなげていくことができると考えている。

[委員] 自己調整学習（セルフレギュレーション）、つまり先生とか大人に強制されてするのではなく、自分なりの計画を立てたり調整しながら学習していくという考え方がある。それは機械的なものではなく、自分の調子とか得意不得意などがわかって自らを律しながら学習していくということは市民権を得ている言葉だと思うので、自分が立つ、誰かに寄りかかってやっていくという意味にとどまらず、自分が主人公であるというように、自分で勉強や経験を重ねていくということでもよいのではないか。

[委員] それでよいと思うが、「自立」は自律を含めて一人立ちという意味で「立」を使うと教わった記憶がある。一時は使い分けていたこともあるが、ずっと「立」を使ってきた。

[委員] 最終案での言葉の使い方は教育委員会に任せるとして、直接子どものことではないが、学校経営の基本的な考えとして1988年の中教審の議論に自主的自律的な学校経営というのがある。そこには学校経営が教育委員会支援のもとで自主的自律的、自らを律するようやっっていくことを期待されており、つまり校長は教育委員会のサポートと同時に身をもってやっっていきなさいという言葉でもあるので、「自立」でもよいが言葉としては割と長く使われている。

[委員] 施策2は「人間性の育成」ではなく「人間の育成」なのか。また、「包容力あふれる」については、唐突に感じたのでインクルーシブとかを意図しているのだと思うが、子どもたちそれぞれが包容力を持つのかと思い、イメージがしにくい。施策3の「幸福度（well-being）を高める」は心の健康や社会生活についても言えることであり、もう少し広い意味のある言葉だと思うのでここだけに「well-being」がかかるのはもったいないと思う。

あと、「計画推進の視点」の5つについて、「子育て」は宇治市で良く使われているのか。使われているのであればいいが、あまりなじみがない。

[委員] 施策2は「人間の育成」ではなく「人間性の涵養」ではどうか。

[委員] 前回「人間性をはぐくむ」としており、人間性のほうが自然。「人間の育成」だと全体のことになり、心の問題だけではなくってしまう。

[委員] 「包容力」は急にどこからともなく出てきた感じはある。

[委員] インクルーシブを意識するなら「包容力」よりも「共生」のほうがおそらく後ろの項目ともつながると思う。共生というのが施策に出てきていると思うので。

[委員] 「共生」は言葉のつながりがこの前段と合わせるためには難しいかもしれない。

[事務局] 施策3の「well-being」について、幸福はhappinessではなくwell-beingという観点だと身体も心もそうであるし、社会的によい状態という持続可能な幸せという意味合いもある。全体にかかるのではないかという意見については、確かに施策2にも絡んでくるとは思う。

[委員] 自己充足感とか自分ができるのではないかという自己肯定感や自己効力感と

という感じの元気、やる気という気持ちと身体がつながったあり方ということではないか。

[委員] 「健やかな身体の育成」ということだけでは物足りない。

[委員] 「健やかな身体の育成」だけだと、身体と心が切り離された感じがする。主体性というか自分の身体の主人公だという感じが出ればよい。

[委員] 「計画推進の視点」にある「子育て」という表現はどういうことか。

[事務局] 今、宇治市では「子育て」ではなく「子育て」という言葉を使っている。幼児教育、保育、育成も含めてそれを大切にしていこうというところからであり、宇治市の上位計画である総合計画でも「子育て」という言葉を使っている。この「計画推進の視点」でも「子育て」から「創造」「挑戦」「共生」「循環」を輪を描くようなかたちで循環させるようなイメージである。この視点で「循環」がここでよいのかも含め意見をいただければと考えている。また施策2の「包容力あふれる」というところは「豊かな人間性」という表現はどうか。

[委員] 京都府のプランでは「豊かな人間性の育成と多様性の尊重」となっている。似ていてもよいが、踏み込みたいというところもある。また、「豊か」というのがよくわからない。悪いことではないが。

[事務局] 「包容力」という言葉がここにあるのは、京都府のほうでもそうだが、大事にしている、包み込まれているという感覚。その部分の意味も入っていると思う。

[委員] 安全だけではなく安心ということと思う。「包容力ある人間性」ではどうか。

[委員] 施策3にある「well-being」の意味での幸福というのを全体にかかるのではないかという意見もなるほどと思う。そうすると、これをどこに持っていくのか。失くしてしまうのはもったいない。

[委員] 「計画推進の視点」に入っている方が全体にかかるという意味で自然である。

[事務局] 「計画推進の視点」中に「幸福」を入れるというのも可能である。以前「循環型」を生涯学習の観点に入れていてわかりにくいとの意見があり、「循環」を「幸福」に置き換えるということも可能だと思う。

[委員] 「循環」はSDGsの絡みもある。

[事務局] もう一つの案として「計画推進の視点」は5つとも全部漢字であるが、ここに「well-being」を全ての視点に入れるというのもありと思う。漢字ばかりの中に英語が急に入ってくるのはわかりにくい。例えば「幸福」として小さく「well-being」と書くとか。

[委員] 「幸福 (well-being)」を5つの視点の真ん中に置くというのはどうか。

[事務局] その案はよいと思う。「循環」はリカレントという視点で入れてはみたが、リカレントの考え方は就業と学習の循環という意味であると思う。生涯学習というもっと広い範囲で、働く事につながらなくても豊かな学びとか人生通しての学びという意味があり、もしかして「循環」というのはあえて狭めてしまっているのではないかと思ったがそのあたりはどうか。

[委員] 生涯学習という視点でいうと循環、リカレントだけに焦点をあてると狭くなるというのは確かにそうである。これは全体にかかる言葉として「循環」としているのであれば学校と社会教育の色々な意味で捉えられ、SDGsにも使われる言葉であるし、ここにあってもよいと思う。他の施策にも関わることを考えればここにあっても狭くない。

[委員] 学校と地域社会とのつながりもあり、世代間のつながりもある。

[委員] つながるといふこと、地域社会と学校もそうであるし学校と保護者もつながる、そこで循環も生まれるし、保護者と地域という広い目で見ればそういったところで循環というのはあってもよい。子どもを育てるなかで社会全体ということを考えればよいと思う。

[委員] 「子育て」という言葉について。多分市長がよく使われていると思うが、少し説明がないと、他の言葉が一般的によく使われている言葉なので、この言葉だけ悪目立ちしてしまっているように思える。宇治市が目指している子育てとはという注釈があれば、「計画推進の視点」でも理解がしやすい。それから、「包容」のところは、最近「社会的包摂」という、排除のない、いじめがないという意味の言葉があるが、「包摂的な」のような言葉がよいと思う。

[委員] 「子育て」は他のまちでもあったりして突飛な言葉ではないが、各施策の中の用語説明のところに入れてもらう感じでよいと思う。「包摂」は「排除」の対語になっている言葉で、まさにインクルージョン、いろんなものを受け止めていく、違いを前提に包み込んでいくという理解かと思う。

[委員] 「包摂」は難しい言葉。「包み込まれている」は子どもが感じる言葉だと思うが、「包容力」は大人目線、多様性を包容するととらえると上から目線のように、「多様性を尊重する」というのと「包容力がある」というのは微妙に視点が違うような気がする。

[委員] 「包摂」のあとどのような言葉を続けたらよいのか。

[委員] 「包摂性」という言葉はあるようだ。

[委員] そうすると「多様性」と「性（さが）」の部分は共通する。

[委員] 子どもが対象なので、実際に学校現場で人間性を育てる言葉として、なかなか難しい。「包容力」も「包摂」も学校、家庭、地域で子どもたちを包むために、ということを中心となって考えるべき。子どもたちの場合は、「多様性を受け入れて」ということだと思っている。他の人を受け入れて他の人と一緒に、他者を認めるという意味になるよい言葉があればと思う。

[事務局] なるべく今よく使われている言葉では、例えば、多様性を尊重しながらいろんな意見を受け入れて、意見を交わしながら共に歩んでいくという「協調」という言葉が、人間性の育成につながるようなワードになるように思う。

[委員] 「協調」は同調、周りに合わせなさい、という意味合いが強いように思う。

[委員] 精神論ではなく、相手の立場に立って物を考えるというのは能力であるべきであって、他者の多様な状況を理解できる力など、培われてできる力という意味合いが含まれたらよい。

[委員] 施策3は、前回の「健やかな身体を育成する教育の推進」のほうがシンプルでわかりやすいのでは。

[委員] 5つの「計画推進の視点」の真ん中に「well-being」があるのならば、「健やかな身体を育成」でよい。

[委員] 「健やかな身体を育成」だと京都府と全く一緒になるが、シンプルにそれでよい。

[委員] 「健やかな身体を育成」の前に「しなやかで」という言葉を付けてはどうか。

[委員] 心にもかかる感じがしてよい。

[委員] レジリエンスの意味合いもある。

[委員] よいのではないか。新しい感じがする。語順も合っている。では、全会一致で「しなやかで健やかな身体の育成」を委員会案としたい。

[委員] 施策4「学びを促す学校内外の環境整備」はこれでよいと思う。

<第3章>

[委員] P19 第3章の「教育推進プラン」という部分について。事務局の考えは。

[事務局] 教育振興基本計画ということ踏まえて、第2章も「教育ビジョン」という形でできているので、教育の推進プランということでこのようにしている。前回、教育は学びを共にするという観点があるというご意見があったので、議論いただければと思う。

[委員] 取り組む施策のところ「学び」という言葉があるので「学び推進プラン」というのもよい。

[委員] 「学び」は社会教育、生涯学習の視点からも違和感はない。生涯学習では「学び」のほうが親和性が高いと思うので「学び推進プラン」「学びの推進プラン」で構わない。

[委員] 教育基本計画なので「教育」とついてもよいし、生涯学習のところできくと「学び」としてもよい。

[委員] 「教育と学びの推進」でもよいのでは。環境整備は教育的な要素になる。

[委員] 全体的には教育という言葉も多く使われているので、「教育と学び」でよい。

[委員] 前回も学習者を主体として全体的に見直してはということだったので「学び」と、あわせて「教育」となるとそちらのほうが周りの行政であったり教育者がどうするかという点もあり、両サイドからという意味では「学びと教育」はよいと思う。

<その他>

[委員] P15の一番下、※のICTの記述については、あえてここに取り上げるとい

うことでよいか。

[事務局] 12年間の計画であるが、当然教育環境は大きく変わる。今現在は入れているが、途中で見直しを行う際に、また適切な表現にしていきたい。

[事務局] 今はむしろツールの一つとして積極的に使うこととされているので、今は入れておいたほうがよいと考える。

[委員] SDGsのアイコンがそれぞれの施策のところに入っているが、それを入れるのであれば、第1章の計画策定の背景のところにはSDGsの説明を追加してほしい。また、別添資料の「SDGsからみた第2次宇治市教育振興基本計画」を入れないと、唐突にアイコンだけではわからないので構成を見直す必要がある。別添資料を入れておけば、各施策のところにはアイコンを入れる必要はない。

[委員] P2の「計画の位置付け」に少し説明の記載があるが、もう少し膨らませて説明したらよい。

[事務局] P2の部分をもう少し膨らませて説明を加えたい。

[委員] P32 [現状・課題] ◆の1点目「…ヤングケアラーへの支援への対応等…」で「への」が続くところが気になる。また、◆の3点目について、市教委としてこのように記載してよいのか。それからP33一番上の◆で「非構造部材耐震改修」の内容が[推進施策と主な取組]に反映されていない。

[事務局] ご意見を踏まえて修正及び説明を追記する。

3. その他

事務局から日程調整に関する事務連絡を行う。

4. 閉会

委員長が閉会を宣言する。

閉 会 (午後6時30分)